東京大学教養学部体育学紀要（1993） 27, 51～59

資　料

選択制導入へむけての学生の体育実技履修希望調査

古屋かおる，松尾彰文，新名謙二，小嶋武次，石井直方，
山田茂，浅見俊雄

東京大学教養学部

Survey on Students' Preferences in Physical Activity Courses When Introducing Elective Curricula

Kaoru Furuya, Akifumi Matsuo, Kenji Niina, Takeji Kojima,
Naokata Ishii, Shigeru Yamada, and Toshio Asami

Dept. of Sports Sciences, College of Arts and Sciences,
The University of Tokyo

東京大学では，平成５年度入学生より，前期課程教育カリキュラムの大幅な改定を行う。その一環として，１年次では『スポーツ・身体運動』，２年次では『身体運動実習』がこれまでの『体育実技（必修科目）』にあたるものとして設置される。このうち，『スポーツ・身体運動』は，１年次の１・２学期にそれぞれ１コマ履修する必修科目であり，これまでとほぼ同様に実施されると考えられるが，『身体運動実習』は選択科目となるため，その受講人数に大幅な変化が生じることが予測される。そこで，これに対処し，２年次における『身体運動実習』については，収容人数，コマ数等になるべく過不足の出ないような適正な時間割が新たに設計されなければならない。また，選択科目であることから，必修という縛りのない中で，学生が毎回の授業に意欲的に取り組むことのできるよう，開設種目の種類や定員，使用施設などについても検討していく必要がある。

また一方で，専門課程に進学後の３～４年次学生を対象とした『スポーツ・トレーニング』が，すでに本年度冬学期より本郷キャンパスで選択科目として開講されている。その拡大要望意見もある中で，さらに規模や内容を検討していく基礎資料として学生の履修希望を把握する必要がある。

今回，体育科では，新カリキュラム実施にむけて，その大枠となる学生収容数，コマ数，種目等の設計に必要な基礎資料を得るために，本学教養学部学生を対象にアンケート調査を行った。本調査の目的は，選択科目として“体育実技”授業が新設された場合のおおよその受講者数および履修を希望する種目の傾向を把握することである。

方　法

アンケート調査は，平成４年10月14日～17日にわたり，２年次の教養学部学生を対象に，体育実技授業時間中に実施した。これは，第４学期の初回の授業であり，通常の種目選択を行った後に，無記名での質問紙法により，図１に示すアンケート用紙を配付し回答を記入させた。

調査項目は，１．前期（一般教養）課程での科類，２．進学内定学部，３．性別，４．第３学期での体育実技　授業履修の希望および履修を希望する種目，５．第４学期での体育実技授業履修の希望および履修を希望する種目，６．シーズンスポーツ（スキー）実習履修の希望，７．後期（専門）課程での体育実技授業履修の希望および履修を希望する種目，８．これまで履修した種目，９．一般教養課程体育実技として新設を希望する種目，であった。項目２，９を除く項目については，用意した選択肢の中から，該当する番号・記号を記入させた。

回答は，コンピュータに入力後，N88－Basicによる集計プログラムにより解析した。

回答の一部については，χ^2検定により，群間における差の検定を行い，危険率１％で有意差を検討した。

結　果

回答総数および回答者の科類・進学内定学部による内訳および性別による比率を表１に示す。得られた総回答数3,113のうち，有効回答数は3,042（97.7%）であり，これは，当該学期に体育実技の履修登録を行った２年次学生数（3.503名）の86.8%に相当した。

科類別

	合計	男	女
総数	3042	2634	408
文科	1329	1069	260
文1	615	541	74
文2	337	305	32
文3	377	223	154
理科	1713	1565	148
理1	1177	1128	49
理2	454	361	93
理3	82	76	6

学部別

	合計	男	女
総数	3042	2634	408
法	604	530	74
経	324	294	30
文	281	180	101
教育	75	48	27
工	924	885	39
農	217	188	29
薬	61	43	18
理	299	264	35
医	118	97	21
教養	139	105	34

体育登録学生数　3503（うち女子453）
アンケート回答者総数　3113（回答率88.9%）
有効回答数　3042（有効回答率97.7%）

表１　アンケート回答者数およびその内訳

注）アンケート注では、正式な科目となる『身体運動実習』あるいは『スポーツ・トレーニング』ではなくこれまで用いられてきた『体育実技』の名称を用いて質問を行った。これに従い、本報告でも、以下、これらを体育実技と記す。

体育実技選択履修についてのアンケート

〔実施期間：10／12～17〕

文・理	科	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	類	進学先　　学部	男・女

来年度入学生からの新カリキュラムでは、２年生の体育実技が必修授業から選択授業に変わり、また、３～４年生を対象とした体育実技の授業も開講されることになりました。そのため、体育科としては、選択科目としての体育実技を履修する学生の数を推定する必要があります。そこで、その資料とするために、皆さんに協力していただき、アンケート調査を行いたいと思いますので、自分であればどうするかを真面目に考えて回答して下さい。よろしくお願いします。

1．Ⅲ学期（夏学期）の体育実技履修について

a．その時限に、他に履修しなければならない科目がない場合、Ⅲ学期に体育実技を履修しますか。　第Ⅲ学期の体育実技を選択して履修した場合、その成績は、現在と同様、進学振分けの対象となることも考慮にいれて下さい。

1．種目にかかわらず履修する
2．希望する種目が選べるなら履修する　……［　　］
3．履修しない

b．設問ａで１または２と答えた人に伺います。どのような種目を希望しますか。「その種目が選択可能であるのならば体育実技を履修する」という種目だけを希望する順に記入して下さい。設問ａで１と答えた人は、順位をつけられるところまで記入して下さい。種目は、右下の枠内の種目群の中から選んで番号または記号で記入して下さい。

希望順	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
種　目												

《記入例１》　卓球ができるのならば履修するが、他の種目では履修しない。

希望順	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
種　目	7											

《記入例２》　サッカー、バスケットボール、ソフトボール、ゴルフ、トレーニングができるのならば履修するが、他の種目では履修しない。

希望順	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
種　目	1	5	2	A	8							

2．Ⅳ学期（冬学期）の体育実技履修について

a．その時限に、他に履修しなければならない科目がない場合、Ⅳ学期に体育実技を履修しますか。成績が進学振分けと無関係である以外は、Ⅲ学期と同様に考えて下さい。

1．種目にかかわらず履修する
2．希望する種目が選べるなら履修する　……［　　］
3．履修しない

b．履修する場合、どのような種目を希望しますか。１－ｂと同様に記入して下さい。

希望順	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
種　目												

3．シーズンスポーツ実習について

実技種目としてスキー実習がある場合、履修したいと思いますか。授業は、準備のための駒場キャンパスでの授業（３～４回）と３泊４日程度の実習（３月上旬）から成る集中授業形式で行います。成績は選択科目として１単位分となります。ただし、実習のための実費は、交通費を含めて３～４万円程度を各人で負担することになります。

1．履修する
2．履修しない　……［　　］

4．専門課程に進学後の体育実技について

a．３年生、４年生になってからも体育実技の授業を受けたいと思いますか。本郷へ進学する人の場合には授業を本郷キャンパスでを行ない、週１コマ、種目は３～４種目の中から好きなものを選択するものとします。

1．種目にかかわらず履修する
2．希望する種目が選べるなら履修する　……［　　］
3．履修しない

b．履修する場合、どのような種目を希望しますか。１－ｂと同様に記入して下さい。

希望順	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
種　目												

＊	0．テニス	7．卓球
種	1．サッカー	8．トレーニング
	2．ソフトボール	9．合気道
目	3．ハンドボール	A．ゴルフ
	4．バレーボール	B．特別体育
群	5．バスケットボール	
＊	6．バドミントン	C．水泳（設問４のみ）

これまで、および今回選択した種目を(番号・記号で)記入して下さい
↓
Ⅰ学期〔　　〕
Ⅱ学期〔　　〕
Ⅲ学期〔　　〕
今学期〔　　〕

5．新設種目について

現在、駒場で実施している０～Ｂ以外の種目で新設を希望する種目がありましたら記入して下さい。

〔　　〕〔　　〕〔　　〕〔　　〕

ご協力ありがとうございました。

図１　アンケート用紙

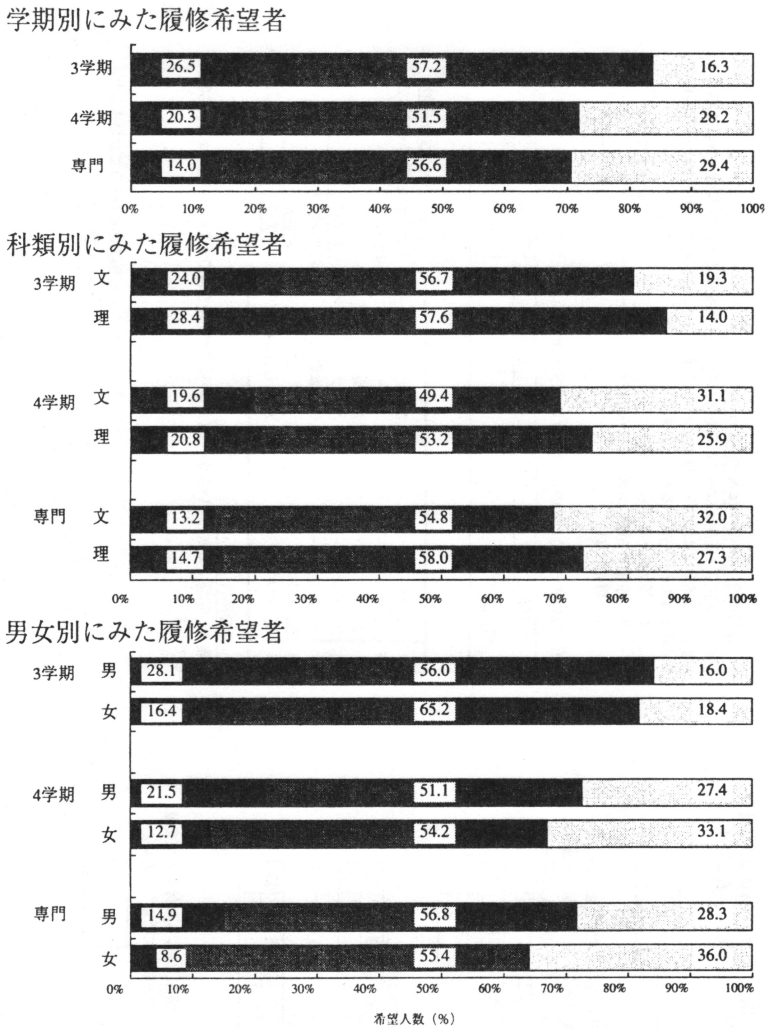

図2　科類・男女別にみた各学期における体育実技履修希望者の割合

			履修する	希望種目であれば履修	履修しない
学期別	3学期		806	1740	496
	4学期		617	1568	857
	専門		427	1722	893
文理別	3学期	文	319	753	257
		理	487	987	239
	4学期	文	260	656	413
		理	357	912	444
	専門	文	176	728	425
		理	251	994	468
男女別	3学期	男	739	1474	421
		女	67	266	75
	4学期	男	565	1347	722
		女	52	221	135
	専門	男	392	1496	746
		女	35	226	147

表2　体育実技履修希望者数

◆選択科目となった場合の体育実技授業の履修について

表２，および図２に第３学期，第４学期，専門課程それぞれについて，体育実技が選択科目となった場合の授業の履修について調べた結果を示す。回答は，「種目にかかわらず履修する（以下『履修する』と略す）」，「希望しない種目が選べるなら履修する（以下『希望種目であれば履修する』と略す）」，「履修しない」の選択肢の中から記入された。

《第３学期（２年次夏学期）での履修について》

「履修する」と回答した者は，806名（26.5%）あり，「希望種目であれば履修する」と回答した者1,740名（57.2%）と合わせると，全体の83.7%（2,546名）を占めた。これに対し，「履修しない」と回答した者は，496名（16.3%）であった。

これを文科と理科の学生に分けてみると，「履修する」あるいは「希望種目であれば履修する」と回答した者の割合は,文科学生で80.7%（1,072名）理科学生で86.0%（1,474名）であり，理科学生の方が履修を希望する割合が大きかった。

また，男女別にみると，男子学生では，84.0%（2,213名）の者が，「履修する」あるいは「希望種目であれば履修する」と回答したのに対し，女子学生では71.2%（333名）であり，男子学生の方が履修を希望する割合が高かった。

《第４学期（２年次冬学期）での履修について》

「履修する」と回答した者は，617名（21.5%）あり，「希望種目であれば履修する」と回答した者1,568名（51.5%）と合わせると，全体の73.0%（2,185名）を占めた。これに対し，「履修しない」と回答した者は，857名（28.8%）であった。

これを男女別にみると，「履修する」あるいは「希望種目であれば履修する」と回答した者の割合は，男子学生で72.6%（1,912名），女子学生で66.9%（273名）であり，第３学期同様，男子学生の方が履修を希望する割合が大きかった。

また，第４学期の時間割が進学内定学部ごとに組まれることから，第４学期については，実際の運用時の資料とするために進学する学部ごとの集計も行った。結果を図３に示す。

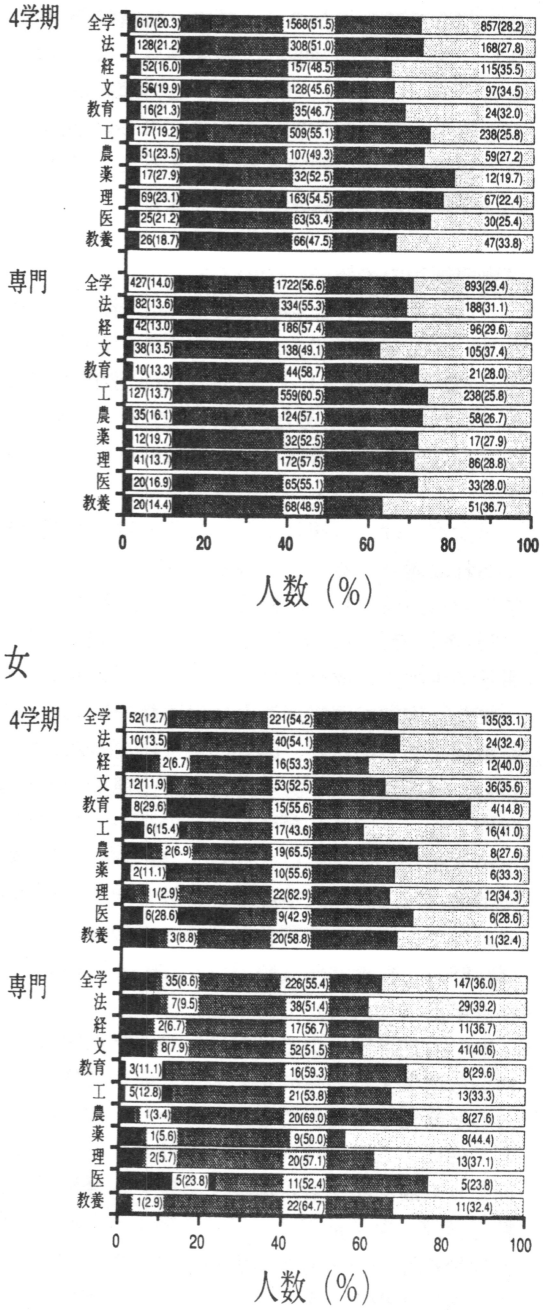

図３　進学内定学部別に見た体育実技履修希望者の割合

「履修する」あるいは「希望種目であれば履修する」と回答した者の割合の高かった学部は，上から順に，薬学部（80.4%），理学部（77.6%），医学部（74.6%），工学部（74.3%），農学部（72.8%），法学部（72.2%）であった。逆に，その割合が低かったのは，順に，経済学部（64.5%），文学部（65.5%），教養学部（66.2%），教育学部（68.0%）であった。この傾向は，法学部を除き，理科から進学する学生の多い学部で体育実技履修に積極的であると考えることができ，第３学期における結果とほぼ一致した。

《専門課程での履修について》

「履修する」と回答した者は，427名（14.0%）あり，「希望種目であれば履修する」と回答した者1,722名（56.6%）と合わせると，全体の70.6%（2,149名）を占めた。これに対し，「履修しない」と回答した者は，893名（29.4%）であった。

男女別には，「履修する」あるいは「希望種目であれば履修する」と回答した者の割合は，男子学生で71.7%（1,888名），女子学生で64.0%（261名）であり，第３学期，第４学期と同様に，男子学生の方が履修を希望する割合が大きかった。

また，進学内定学部ごとに専門課程における履修希望をまとめると，図３のようになった。すなわち，「履修する」あるいは「希望種目であれば履修する」と回答した者の割合の高かった学部は，上から順に,工学部（74.2%），農学部（73.2%），薬学部（72.2%),医学部および教育学部（72.0%）であった。逆にその割合が低かったのは，文学部（62.6%）,教養学部（63.3%）,法学部（68.9%），経済学部（70.4%）であった。

進学内定学部による傾向は，第４学期同様，理科から進学する学生の多い学部で履修に積極的であると考えることができる。しかし，個別に見ると学部による変動は大きく，全体としては第４学期よりも履修希望者が減少する中で，経済学部，教育学部，農学部では，第４学期よりも専門課程進学後に履修を希望する者が多かった。学部ごとの学習環境やカリキュラムによって，体育実技履修希望に違いが生じていると考えられる。

＝＝全体の傾向＝＝

《開設学期による差》（図２－ａ）

各学期間の履修希望にはきわめて強い有意差が認められた（$p<0.0001$）。すなわち，第３学期，第４学期，専門課程と学期が進むにつれ，「種目によらず履修する」が減少し，「履修しない」とする者の割合が増える。専門課程への進学振分けに関わる単位の問題や他の学習環境との兼ね合い，あるいは単純に運動環境としての季節の違いなどにより差異が生じているのかもしれない。

《文科・理科学生の差》（図２－ｂ）

文科学生と理科学生について比較すると，いずれの学期においても理科学生で文科学生よりも履修希望の度合いが高い傾向が認められたが，その差は学期を追うごとに小さくなった。第３学期および第４学期では文科・理科間の差は有意であったが，専門課程での履修について同様な傾向は認められるものの有意な差は認められなかった。

《男女差》（図２－ｃ）

男子学生と女子学生における履修希望については，すべての学期において男女間でのきわめて強い有意差が認められた。すなわち，いずれの学期でも，男子学生では「履修する」者の割合が高く，かつ「履修しない」者の割合が低い傾向が認められ，男子学生の方が体育実技履修に積極的である傾向が認められた。

また，総じて，男子では理科の学生で，女子では文科の学生で，「履修する」者の割合が高く，かつ「履修しない」者の割合が低かった。

◆履修を希望する種目について

《履修を希望する種目の数》

時間割作成にあたって受講人数を推定し，開設種目を決定する際，「希望種目であれば履修する」群が実際にどの程度履修するかを把握することが，大きな鍵となる。そこで，各学期について，「希望種目であれば履修する」と回答した者が，履修を希望する種目として記入した種目数を図４にまとめた。どの学期についても３～５種目を記入した者が最も多く，平均の記入種目数は，３学期で

4.5±2.2，4学期で4.4±2.2，専門課程では4.2±2.2種目であった。また，この記入種目数には，第1位に希望した種目によるちがいは認められなかった。

《履修を希望する種目の順位》

体育実技が選択科目として開設された場合，より多くの学生が体育実技を履修することが可能となる条件を準備することを目指すとするならば，

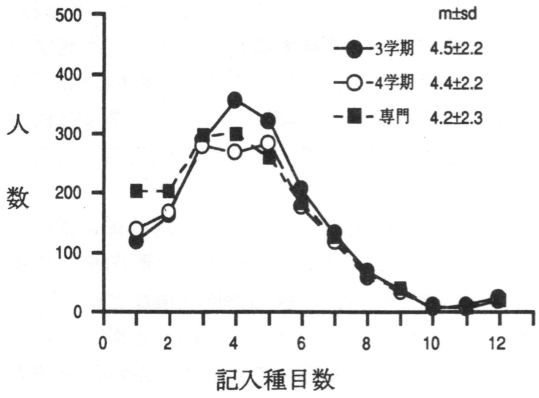

図4　「希望種目であれば履修する」回答群における履修希望種目の記入数

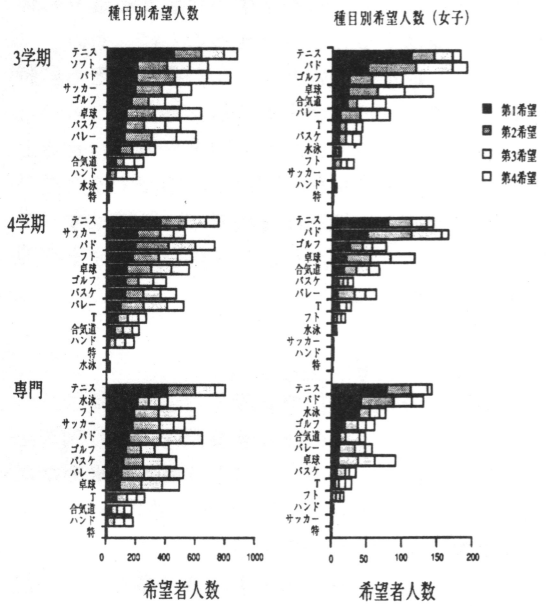

図5　「希望種目であれば履修する」回答群における第4位までの履修希望科目

本調査で「希望種目であれば履修する」と回答した者の動向を把握する必要があるであろう。そこで，「希望種目であれば履修する」と回答した者について，第4位までの希望する種目の順位について分析を行った結果を示したものが図5である。図は，第1位に希望する者が多かった種目順に配列した。

一方，これを第1位から第4位までの希望のべ人数でみると，種目間には異なる順位があった。すなわち，上位5種目について示すと，第3学期では，①テニス，②バドミントン，③ソフトボール，④卓球，⑤バレーボールの順であった。第4学期では，①～④は同じで，⑤サッカーの順であり，専門課程では，①～③は同じで，④サッカー，⑤バレーボールの順であった。

種目ごとにみられるこのような希望の表われ方の違いは，実際の種目定員を設定する際に十分考慮する必要があることを示している。すなわち，第1位に希望する者の割に，それ以下の順位での希望者が明らかに減少する種目（テニス，専門課程での水泳など）では，その種目を志向する者と志向しない者がはっきりと分離していることを示唆し，仮に，種目選択時に第1希望者が設定定員を下回った場合，第2希望として履修を希望する学生をそれほど期待できない場合があることが予想される。このような種目については，主に第1位に希望する者の人数から，各コマでの定員を慎重に設定する必要があるであろう。これに対し，第1位希望者がそれほど多くないが第2位以下で履修を希望する者が平均してあるような種目（卓球，バレーボールなど）は，強く指向する者はそれほど多くなくとも，多くの学生にとって比較的取り組みやすい種目であると受け止められていることが予想される。このような種目については，第4位までの希望のべ人数を考慮しつつ積極的に設置することにより，種目選択時に第1希望種目を選択することのできなかった者を含め，より多くの学生を収容することができるであろう。

さらに，女子の希望順位には大幅な違いが見られ，全体としては上位にあったソフトボール，サッカーの順位がきわめて低くなる一方で，合気道を希望する者が5位に上昇した。また，女子では，第1位希望人数，希望のべ人数とも，順位が下が

るほど，履修希望者が大幅に減少し，男子より種目に対する志向が偏っている傾向がうかがえる。このように，女子では，開設種目（およびその定員枠の大きさ）が履修の程度に影響を及ぼしやすいことが予想され，女子学生の多いコマについては，この点を考慮する必要があろう。

《試算》

第３学期および第４学期について，体育実技を「履修する」あるいは「希望種目であれば履修する」とした者は，それぞれ，2,546名（３学期），2,185名（４学期）である。これらの学生に対しては，仮に，５コマを開設するとすれば，現在と同様に１コマあたりそれぞれ509.2名および437名を収容することになる。ここで，現在の種目選択と同様，それぞれの学期について１コマあたり９種目を開設するとして，種目ごとの収容状況を試算してみた（表３）。設定種目は，第１位希望者の多い順に９種目を選んだ。各種目の定員は，体育科教務資料に記載された「種目ごとの最多人数・最適人数」を参考に，施設・用具などの点から見て現在可能な範囲内で第１位希望者の多かった種目から定員を多く設定した。特別体育を希望する者については，全体の人数から外した。

	種目	(1ｺﾏ定員)	5ｺﾏ定員	第１希望者	余り	定員欠け
3学期	ﾃﾆｽ	72	360	626	266	
	ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ	60	300	305	5	
	ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ	64	320	264		-56
	ｻｯｶｰ	64	320	300		-20
	ｺﾞﾙﾌ	40	200	203	3	
	卓球	60	300	169		-131
	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	56	280	223		-57
	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ	56	280	195		-85
	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ	35	175	108		-67
	合気道	0	0	85	85	
	ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ	0	0	32	32	
	水泳	0	0	7	7	
	特別体育			8		
	計	507	2535	2525	398	-416

	種目	1ｺﾏ定員	5ｺﾏ定員	第１希望者	余り	定員欠け
4学期	ﾃﾆｽ	72	360	508	148	
	ｻｯｶｰ	56	280	298	18	
	ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ	56	280	242		-38
	ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ	60	300	249		-51
	卓球	48	240	162		-78
	ｺﾞﾙﾌ	30	150	151	1	
	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	48	240	213		-27
	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ	48	240	149		-91
	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ	20	100	90		-10
	合気道	0	0	73	73	
	ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ	0	0	26	26	
	水泳	0	0	5	5	
	特別体育			7		
	計	438	2190	2173	271	-295

表３　「身体運動実習」における学生収容状況の試算

結果を表３に示す。第１希望の種目を履修することができない学生は，この試算では設定しなかった種目（合気道，ハンドボール，水泳）を希望した者，およびテニスを第１位に希望した者を中心に，第３学期，第４学期で，それぞれ，391名（15.4%），271名（12.4%）であった。すなわち，体育実技を「履修する」あるいは「希望種目であれば履修する」とした者のうちの84.6%（３学期），87.3%（４学期）の学生が，第１位に希望する通りの種目を履修することが可能であることが示された。

実際の種目選択場面で，第１希望種目を履修することができない学生がどのような動向を示すかについては，今後，種目間の近親度などについてさらに細かい分析を加える必要があるが，平均の履修希望種目数が４種目であることから，上述以上の履修者があることも予想される。また，テニスの第１希望者がきわめて多いことに対処して，施設・用具の整備を含め，収容人数を増やすことを検討すれば，大多数の学生が希望する通りに体育実技を履修することができることになる。

また，人数が少ないとはいえ，各学期ともに特別体育を第１位に希望する者があった。このことと，特別体育授業の目的や意義とを考え合せると，仮に開設する種目を９種目以下に削減する必要が生じた場合でも，特別体育授業についてはすべての学生に対して履修が可能な条件を用意する必要があると考えられる。

◆新設種目の希望について

前期課程の体育実技で新設を希望する種目については，４種目までの複数回答記入により調査を行った。今回は，自由記入により回答を求めたため，回答された種目は，225もの多岐にわたった。表４に第10位までの種目を示す。

男女ともに，水泳を希望する者が多く，この他，

注）この試算は、「同じ時限に他に履修しなければならない科目がない場合」と条件をつけた上での履修希望者数をもとに行ったものであり、実際の履修状況の最大の枠組みとして考えて良いと思われる。

	計		男		女	
	種目	人数	種目	人数	種目	人数
1	水泳	187	柔道	163	エアロビクス	74
2	柔道	169	水泳	145	水泳	42
3	野球	129	野球	126	ダンス	20
4	エアロビクス	98	空手	81	スキー	17
5	陸上競技	88	ボーリング	77	スケート	14
6	ボーリング	83	ラグビー	77	陸上競技	12
7	空手	83	陸上競技	76	体操	11
8	ラグビー	80	剣道	70	ヨーガ	10
9	剣道	77	相撲	64	ラクロス	10
10	スキー	66	カバディ	54	弓道	10
	相撲	66			馬術	10

表4　前期課程体育実技に新設を希望する種目

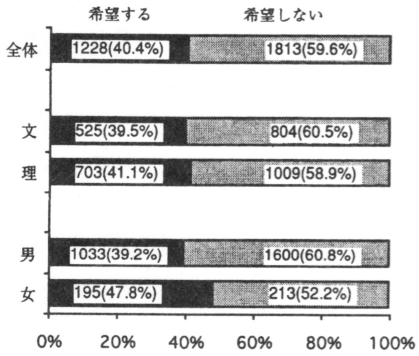

図6　スキー実習履修希望者の割合

男子では柔道，野球，女子ではエアロビクスおよびダンスを希望する者が上位を占めた。これらの種目については，屋内水泳プールなどの設備面の整備も含めて，今後，開設を検討する余地があると考えられる。現在ソフトボールが種目として開設されている中で，野球を希望する者が多いことも検討課題である。

◆スキー実習の履修の希望について

図6にスキー実習履修の希望調査の結果を示す。科類ごとにややばらつきのあるものの，全体としては，「履修する」と回答した者は，1,228名（40.4%）であり，これに対し，「履修しない」と回答した者は，1,813名（59.6%）であった。特に，女子では，半数近く（47.8%）の者が「履修する」と回答し，その割合は男子（39.2%）より高かった。

この結果は，昭和63年度に，同じく教養学部学生に対して行った体育実技の履修に関する調査[1)]でシーズンスポーツとして体育実技へのスキーの導入を希望した者が67.0%あったのと比較すると明らかに少ない。これは，今回の調査では，現在行っているゼミ形式でのスキー実習実績をもとに，新たに，実習を行う時期や授業形式，実習費用について，具体的な実施条件案を提示したためとも考えられる。

いずれにせよ，比較的多くの学生がスキー実習履修を希望するとしており，実技科目として開設を検討する必要があると考えられる。

1) 浅見俊雄，松尾彰文，琉子友男，友末亮三：本学における学生の体育実技履修種目の実態と要望に関する調査結果について。東京大学教養学部体育学紀要，24：109－117，1990.